

---

IF 魔法先生ネギま 短編 怠惰de最強inネギま

辺 鋭一

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

IF 魔法先生ネギま 短編 怠惰de最強inネギま

### 【Nコード】

N0820Z

### 【作者名】

辺 鋭一

### 【あらすじ】

IF 短編集第二弾

いきなり思いついたネタなので、そんなに分量はありません。オリ主以外はほとんど空気です。

というかオリ主のモノローグ形式です。

それでもいいという方はぜひご覧ください。

(前書き)

本当ならオリジナル小説を投稿したかったのですが、  
何をトチ狂ったのかネギまのネタが下りてきてしまいました。  
反省はしています。  
後悔なんかしてやりません。

そんなわけで、駄文ですがどうぞ。

みなさんどうもこんにちは

てんせいけいおりじなるしゅじんこうです

ぜんせではにーとでした

いえでごろごろしてたらいきなりむねがくるしくなってきた感じが  
なつて

きがついたらめのまえにかみさまがいて

「まちがえてころしちゃった。ごめんね（はーと）」

つていわれたのでほこぼこにしたら

「おまけつきでてんせいさせるからゆるしてください」  
つてなきながらいわれててんせいしました

せつめいおわり

もうねていいですか？

……だめですか？

……わかりましたよ

……やりますよ

……やればいいんでしょう？

……え？

……ちゃんともじへんかんしろ？

……やだ、めんどくさい

……わかったよ

……わかりましたよ

だからそうみみもとでどならないでください……

というわけで、改めましてこんにちは。  
転生系オリエントの平等院金美です。

名前が厨二なのは気にしないでください。

年齢は13さい 麻帆良学園女子中等部2 - Aに所属しています。  
性格はめんどくさがりの一言に尽きます。

できれば学校にも行きたくないけど、

「義務教育だから行きなさい」ってこっちの世界の両親にも言われ  
れてるし、

寮の部屋に引きこもってようにも、同室の人が真面目な人で、

「ちゃんとしなさい!!」って教室に無理やり連れて行くんです。

体だけは健康なので、こんな性格なのに皆勤賞を狙えています。

怠惰人としては実に不名誉極まりないですね。

まったく、仕方ないいいんちよだ。

私の性格についてはこのくらいにしましょう。

これまでの経緯は先ほど説明したので省略します……

……え？ ひらがなばかりで読みにくいから飛ばした？

……しょうがないですね、もう一度説明しましょう。

……めんどくさいですけど。

前世で私はニートでした。

親のすねをかじり倒し、ことごと煮て出汁<sup>だし</sup>までするようなダメ

人間でした。

ある日、私がいつも通り部屋でゴロゴロしていると、急に胸が苦しくなり、

そのまま目の前が真っ暗になり、気が付いたら真っ白な世界にいました。 テンプレです。

起き上がると目の前に仙人みたいなおじいさん（神）が現れました。 テンプレです。

「間違えて殺しちゃった、ごめんね（はーと）」って言われました。 テンプレです。（？）

とりあえずマウントポジションでボコボコにしました。 テンプレです。（！？）

気が済むまで殴り、そのあとこれからどうしようかと考えていると、

「おまけつきで転生させるから許してください」って泣きながら言われました。 テンプレです。

まあそれならいいか、って思っておまけなどの細かいことは全部お任せにして転生しました。

いちいち決めるのめんどくさいし。  
私はのんびりできればそれでいいので。

その結果、私が転生したのはネギまの世界。

その世界のとある魔法関係者の夫婦の間に生まれました。  
持っているのは世界最高の魔力量と気の量。

そしてどんな技術でも異常な速さで習得できる能力。  
魔力と気はともかくとして、技術習得の能力はすさまじいものでした。

魔法だろつが体術だろつが教われれば何でもできてしまいます。  
しかも基礎を教えてもらえばそこから自己流で発展技も編み出せます。

とりあえず修行の時間が減ってのんびりできます。 最高ですね

この能力。

そういえば、この間高畑先生に『気と魔力の合成』って言うのを教えてもらったときは一日でできてしまい、先生の自信をベッキリぼつきりへし折ってしまいました。

……今度からもう少し気をつけましょう。

まあそれはそれとして、この能力は魔法使いにとってはとても強力です。

その代わり、この能力は勉強には使用できません。

勉強そのものは技術とは認識されないようです。

いくらやっても人並みにしか覚えられず、軽く絶望しました。

でもまあ、『効率のいい勉強法』と『超暗記術』という技術を持つ人に勉強法と暗記法を教えてもらってからは問題なくなりましたけど。

何でも技術の枠に入れてしまえば大丈夫なようです。

これで私のだらだら生活も約束されましたね！！

……そう思っていた時期もありました。

実は私の両親、魔法関係者の中でもかなり有名な人たちらしいです。

なので交友関係はかなり広く、魔法関係者の偉い人にも友人がいるそうです。

両親から護身用にと受けていた修行のときの様子をその人に見られてしまい、

あの二人の子供、しかもこんなに優秀ならば放っておくのはもったいない、とのことで、

『マギステル・マギ偉大なる魔法使い』候補として麻帆良で魔法生徒をやる羽目になりました。

……ほんとにめんどくさいです。

なんて家に生まれさせてくれやがりましたか神のやつ。

今度会ったらマウントポジションでボッコボコの上に私が使える技（魔法、体術問わず）のすべてを華麗につなぎ合わせた連続コンボ（初めから終わりまで約二時間かかる）をお見舞いしてあげましょう。

今まで最初の十発以上より多く耐えた人はほとんどいませんけど、あいつなら最後まで行けると思いますが。 神ですし。

魔法生徒になったおかげで夜間にも見回りの仕事が入ってきます。本当なら昼間だって動きたくないのに。

まあそれでも、実力が評判ほどではないと思わせればいかと考えて、顔見せのときに命じられるであろう模擬戦で適当にやってやることに決めました。

当日は、負けてぼろぼろになるのは嫌なのでいい勝負をして引き分けたふりをしました。

そしてその演技は完璧でした。

きつちりその対戦相手と互角に見えるように戦いましたとも。その対戦相手の、麻帆良でも一二を争う魔法生徒のペースと。

……おかしいでしょ。

なんで小手調べの戦いにそんな大物が出てきやがりますか。

なんでそんな大物が手加減に手加減を重ねた私と同等ですか。



なんでそんな大物が二人同時にノックアウト（私はしたフリですが）したときに全裸になりますか。

なんでそのあとライバル視されて切磋琢磨し合える対象に指定しやがりますか。

いろいろおかしすぎて理不尽すぎて笑えてきますね。 H A H A

H A H A ～ ～ ！ ！

……そのおかげでかなりの戦力になると期待されちゃったじゃないですか！ ！

そんなこんなで、昼は学生夜は魔法生徒と、二足のわらじを履くようになってからもう一年経ちました。

一応見た目は一般人です。

怪しまれたりなんてしませんとも。

今日も今日とて真面目な一般生徒を演じています！

「あの、金美さん？ どうかなさったのですか？ 先ほどから変な顔で何やらぶつぶつと……」

「ああ、いいinchよ、ほっときなよ。 そうなったときのカナミンは簡単には戻ってこないから」

「ですが、クラス委員長として、さらには同室のルームメイトとして、友人の奇行を見逃すわけにはいきませんわ」

「いいからいいから。 カナミンの奇行は今に始まったことじゃないし。 もうクラスどころか学校中に知れ渡って黙認されてるんだから。 そのうち戻ってくるから。 いつものことでしょ？」

「それはそつですけど……」

でもほんと、真面目にやるってのは疲れますね。

……私だつて真面目になんかやりたくありませんよ。  
でも昼は同室の人が、夜はライバル（笑）が引つ張り出しに来る  
んですから。

仕方なく仕事に出ていくんですよ？ ツンデレじゃないですから  
ね！

……やめましょう。キャラに合わないことをしても疲れるだけ  
ですし。

ともあれ今日もお仕事です。今日は少しイライラしてますので  
派手にいきますか。

「さあ、金美さん！ 敵が来ましたよ！ ちゃんとしなさいな！」

……隣のライバル（笑）にやる気を根こそぎもつていかれました  
よ。

なんでこの人はこういつもいつもハイテンションなんですかねえ？  
まあとりあえず、適当にぶっ放しますか。

「アーモ―・メンドイ・メンドクサイ 契約に従い 我に従え  
炎の霸王 来たれ 浄化の炎 燃え盛る大剣 ほとばしれよ ソド  
ムを焼きし火と硫黄 罪ありしものを死の塵に」

「ちよつ、金美さん！ その気の抜けるような始動キーはいい加  
減変えてくださいというか、いきなりそんな大呪文を」

あーあー、聞こえませんかねえ。 いいじゃないですか、少しぐら  
い憂さ晴らしたつて。

……それじゃあ、行きますよ〜！

「『燃える天空』！！」

おお、今日もよく燃えていますねえ。

明日もいい日になりそうです。

(後書き)

実は主人公にこの始動キーを言わせたかっただけだったり。

本当は伝勇伝とネギまのクロスで、ライナにいわせたいな〜って思ったのですが、

私の文才が追いつきませんで、このような短編に落ち着きました。

賛否両論あるとは思いますが、ぜひ感想などお寄せいただきたく思います。

では本日はこれにて。

ここまで読んでくださった方々に最大限の感謝を。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0820z/>

---

IF 魔法先生ネギま 短編 怠惰de最強inネギま

2011年12月3日00時48分発行